

『専門日本語教育研究』第27号 論文賞

「ミャンマー人訪問介護員の「聞き返し」
—在宅障がい者支援における言語・非言語コミュニケーション—

木田 章代 (京都外国語大学 非常勤講師)

〔授賞理由〕

本論文は、外国人介護人材の受け入れが拡大する社会的背景のもと、在宅介護・支援の現場で働くミャンマー人訪問介護員の「聞き返し」に着目し、その実態と有効性を専門日本語教育の視点から明らかにした研究である。現場でのコミュニケーションの工夫を丹念に掘り起こしている点が特徴的である。以下、評価すべき点を3点挙げる。第一に、在宅支援という単独遂行を基本とする就労環境において、日本語能力が十分とは言えない介護員が、利用者のニーズを把握し、サービスを成立させている実態を、当事者の語りに基づいて具体的に示している点である。聞き返しを支援遂行のための実践的なコミュニケーション方略として捉え直している点は、日本語教育研究においても示唆的である。第二に、非言語的手段を組み合わせた選択肢を提示する聞き返しが、N4・N3 相当の日本語能力段階においても有効に機能していることを、具体的事例を通して明らかにした点である。高い言語運用能力を前提としない支援のあり方を示した点で、就労日本語教育や専門日本語教育の実践につながる成果といえる。第三に、聞き返しを肯定的に捉える介護員の意識や、利用者との協働的な関係に焦点を当て、聞き返し回避がもたらす問題点についても具体的に論じている点である。確認を重ねる姿勢が、結果としてサービスの質の確保やトラブル防止につながることを示している。

深刻な人材不足のもと、外国人介護人材が在宅支援の担い手として期待される現在、本論文は、専門日本語教育が介護現場の実践とどのように結びつき得るのかを具体的に示している。言語教育と福祉実践を繋ぎ、現場で活用可能な知見を提示した点において、教育的・社会的意義はいずれも大きい。

以上の理由から、本論文を、現代的課題に応える実践志向の研究として高く評価し、論文賞の受賞対象としてふさわしいものと判断する。

受賞に際しての所感

木田章代

この度は論文賞を賜り、大変光栄に存じます。査読や選考に携わってくださった先生方に厚く御礼申し上げます。また、貴重なご意見やご助言をくださった先輩研究者や同僚の支えがなければ、本論文をまとめることはできませんでした。何より、多忙な中インタビューに快く協力してくださったミャンマー人訪問介護員の皆様に、心より御礼申し上げます。

近年、介護の外国人材への関心は高まっていますが、施設で働く介護職員に比べ、訪問介護員の実態は十分に明らかにされてきませんでした。訪問系サービスは、利用者に受け入れられなければ就労が継続できない状況の中で、長年続けている人がおり、その背景には人間関係の築き方や業務遂行上の工夫があったことが、本研究の出発点です。本論文では、ミャンマー人訪問介護員と利用者とのコミュニケーションの一端を明らかにできたと考えております。

この受賞を励みに、今後も現場に資する知見を積み重ねられるよう研究を続けてまいります。